

「2人以上の育児支援」「古民家再生」
地域活性化に貢献



東濃信金職員が成果報告

職業上の知識や技能を生かして社会貢献するボランティア活動「プロボノ」に取り組んでいる東濃信用金庫の成果報告会が、多治見市虎渓山町のとうしん学びの丘エールであり、約70人の関係者が熱心に耳を傾けた。

(高木俊徳)

今年で3年目となったプロボノは、同金庫職員20人が、同市の「ぎふ多胎ネット」、土岐市の「曾木まちづくり協会」の二つのNPO法人で約半年間活動した。

ぎふ多胎ネットは、双子や三つ子の育児を関係者約70人を集めて開かれたボランティア活動の成果報告会。多治見市虎渓山町、とうしん学びの丘エール

支援する組織。同時に2人以上の育児となるため、身体的、精神的にも過重負担を強いられ、孤立や虐待に発展するケースも出てくる。同ネットについて、社会的価値活動を数量化して測定する「SROI」で算出したところ、活動の貨幣価値は4900万円で、SROIは20・24と高い数値が示され、「非常に社会的価値の高い活動だと証明された」と報告。安定した事業収益を課題に挙げ、「助成金に頼らず、支援企業を増やすこと」と結論づけた。

曾木まちづくり協会については、まちづくり手法として、ウオーキングや古民家再生などのイベント開催を提

案。ソーシャルネットのクラウドファンディングの活用法を示し、情報発信、資金集め「キーワードは若者。私たちも支援する。一緒に頑張ろう」と結んだ。